

宇電総事務局ニユース

No. 17.

1972, 5, 27.

中五期宇電総事務局 (豊川)

<定例総会> 議事録

1972, 5, 24, 於 東大・天文学教室

1. 中五期活動報告 (海部)

宇電総は天文学に於ける自主的な研究者の
グループとして一応スムーズに運営されて来た。

タンバール・グループを確定したことも成功している。

各機関や各メンバーからの内題提起・主張は
なお充分とはいえない。

活動の主なものは

(イ) シンポジウム (4回) (ロ) ニュース発行 (11号)

(ハ) シンポジウム等の出版 (ニ) 大型電波望遠鏡
小委員会 立案 (ホ) 大型宇宙電波望遠鏡
計画の推進 etc.

情報の流れが一方通行であった。

2. 中五期事務局

運営委員会より 知大・宇電研を推薦したい
と提言があり、承認された。田中運営委
員長より、中五期の互恵に基づいて活動するよう
努力するとの挨拶があった。

3. 見直しについて (海部)

71年は宇電総の旅費・出版費等については、
総研B (VLBI工) に世話になった。会員名簿
の発行で手持ちの資金はなくなった。事務局と
しては、出版の運転資金、緊急の旅費支出
等に充てる資金が必要である。こうした考え
に基づき、運営委員会から 年300円の会費を
徴集することへ提案され承認。

増換

4. 報告

- (1) No. 16 News 以後の将来計画 (東羽)
概算要求に出した 45m 中、予備計、受信機のうち、受信機については具体的になつめを行ふ必要がある。
- (12) 科費不可費、
研究費研究、：落ちた。
総合 A：宇宙電波の研究 (190 万円)
Water Vapour の吸収の観測継続。
総合 B：二つ通った (194 年 1 つ)。
総額 317 万、可成り研究会は開かぬよう。
- (11) 会員名簿の発行 (郵部新事務局にあり得る。)

5. 今期の活動方針

- (1) 宇宙電波シンポジウム
12 月に野田山で開く。話題については未定。主話題は、天文、宇宙電波、太陽電波にアテアテを通知する。
- (2) 将来計画勉強会 I
題目：受信機、情報処理システム
7~8 月豊川で開催予定。
- (3) 将来計画勉強会 II
題目：連星の問題
東京名工屋で開く。詳細は秋の総会に決める。
- (1) (2) (3) の研究会は総合 B の旅費に申し込むことになり得る。